

平成30年度

北区学校ファミリー
事業報告書

東京都北区教育委員会

はじめに

北区教育委員会 教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流や「学校ファミリーの日」の活動状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、平成27年3月に策定された『北区教育ビジョン2015』では、重点施策のトップに「地域と一体となった教育の推進」を掲げ、「サブファミリーによる特色ある教育の推進」、「就学前教育・保育の充実」、「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫校の検討や、認定こども園の設置検討を行ってきました。

小中一貫校については、平成30年度から神谷中サブファミリー施設一体型小中一貫校学校経営検討委員会及びカリキュラム検討委員会を立ち上げました。3校がカリキュラムの検討や行事の合同実施等を通して、教育内容のより一層の充実を図るとともに、平成35年度の開校に向け、段階を踏み、丁寧に取り組んでいます。

そして、将来的には北区における「小中一貫教育の発信源」として、その教育的成果を、他の区立小・中学校に活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

目 次

I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小 ・じゅうじょうなかはら幼	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小	7
稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼	13
神谷中・神谷小・稲田小	15
浮間中・浮間小・西浮間小	17
田端中・滝野川第四小・田端小	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小 ・たきさん幼	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小	23

II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要	25
---------------	----

王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小 ・さくらだこども園）

1 交流・連携の方向性

(1) 研究主題 平成30年度 ～自己肯定感の高い子ども～

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫
 —「王子桜中サブファミリー 授業スタンダード」の実践—

(2) 研究の内容と方法

- 研究成果の継承と発展 過去2度に渡る、幼小中一貫教育の研究成果を共有した上で、今年度の研究を進める。「知・徳・体」の3分野を8つのチーム（教科・領域等の8分科会）で編成し、研究主題に沿った教科の指導方法及び評価方法を授業（保育）に生かした上での授業研究に取り組み、更なる「自己肯定感の高い」幼児・児童・生徒の育成に努める。
- NIEのつながり NIE教育を連携の土台とし、朝のNIE・新聞タイムの実践における成果を検証し、工夫、改善を進める。こども園・小・中の発達段階に沿い、新聞を授業の素材として活用する実践を重ねていく。
- 授業スタンダードの共有 こども園・小・中のつながりを生かした学びの充実を図るため、「王子桜中SF授業スタンダード」（授業改善の視点）をサブファミリーのすべての教員が共有し、日々の授業改善を深めていくことを目指す。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- 第1回運営委員会【5月7日(月) 王子桜中にて】
 - ・組織及び研究内容の検討、年間計画作成
- 第2回運営委員会【3月末 王子桜中にて】
 - ・1年間の反省、次年度計画の立案
- 次年度に向けての研修会【2月21日(木) 王子桜中にて】
 - ・研究推進委員及び分科会リーダーによる研修会
- その他、6回の研修会にて、分科会リーダー会議及び研究推進委員会を実施

(2) サブファミリー全体での活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
6月14日【木】	東十条小	ファミリー研修会	全体会：これまでの研究についての報告・今年度の研究方針の確認と具体的研究計画の検討 分科会：6 / 20の研究授業指導案検討

6月20日【水】	東十条小	第1回学校ファミリーの日	東十条小教員による研究授業 分科会での研究協議
8月31日【金】	王子桜中	ファミリー研修会	講演会 分科会：9/5の研究授業指導案検討 交流親睦会（バレーボール他）
9月5日【水】	王子桜中	第2回学校ファミリーの日	王子桜中教員による研究授業 分科会での研究協議
平成31年 1月23日【水】	王子小	ファミリー研修会	分科会：1/30の研究授業の指導案検討
1月30日【水】	王子小	第3回学校ファミリーの日	王子小教員による研究授業 分科会（研究協議・紀要原稿の作成）

○研修講演会(8月31日実施)

「学びのプロセスを質的に高める授業改善」

講師：国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科教授 澤井陽介 様

○その他の活動

- ・王子桜中体育祭への小学生・こども園児童の参加
- ・中学生職場体験学習受け入れ(5日間)
- ・SF水泳記録会

3 成果と工夫した点

(1) 成果(1年間の研究を通して)

- こども園・小・中での成長の過程を共通理解した上で、こども園・小・中それぞれの立場から学習のつながりを意識した学習指導案検討を行い、系統性をもった教材開発、教具の工夫、授業実践をすることができた。
- 具体的な授業改善の視点を提示したことで、全分科会共通な協議会でのテーマができ、協議内容を充実させることができた。

(2) 工夫した点

- サブファミリー内の教職員のみ使用可能な特定公開フォルダーを有効活用している。学習指導案や各資料を入れることで、各教員が自由に閲覧・編集・検討をすることができ、作業の効率化と指導案検討の充実につながっている。
- 夏季休業中の研修会の後に、こども園・小・中の教員で合同チームを作り、スポーツ交流(バレーボール)を行っている。指導案検討や授業研究だけでなく、共に汗をかきスポーツを行うことで、本サブファミリー内の交流がより親密になり、情報交換しやすい人間関係を構築している。

4 課題と改善の方向性

本年度も分科会形式で研究・授業実践を進めてきた。今後、新学習指導要領の全面実施に備え、サブファミリー内での授業改善の視点をより明確化・深化させることで、サブファミリー全体としての授業力向上をさらに図っていく。

十条富士見中サブファミリー

(十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・
荒川小・十条台小・じゅうじょうなかはら幼)

1 交流・連携の方向性

- ・研究主題を「言語活動の充実」～幼児・児童・生徒の主体的な学びの推進～と設定し、研究を進める。
- ・幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育を推進する。
- ・分科会は、「①国語」、「②社会科・生活科・総合的な学習の時間」、「③算数・数学」、「④理科・道徳」、「⑤図工・美術・技術家庭科・体育・音楽」、「⑥英語・外国語活動」、「⑦特別支援教育」とし、授業研究、講師を招聘した小中一貫教育研修を実施する。また、指導案に関しては、小中一貫教育カリキュラムに基づいて作成する。
- ・幼児、児童、生徒の交流学習の実施や地域行事を活用した連携活動を推進する。

2 具体的な活動

(1) 調整・話し合いの実施

- ・校園長連絡会（年度当初、年度末に実施）
- ・運営委員会（副校長・主幹・教務主任 ※幼稚園は主任）
- ・養護教諭連絡会等、必要に応じて教員の連絡会を設定する。

(2) サブファミリー全体の活動

- ・授業研究（年間3回）

① 6 / 20 王子第三小学校 ② 9 / 5 十条富士見中学校 ③ 1 / 30 王子第二小学校

- ・つまずきゼロプラン検討会 ・小学生の中学校体験入学
- ・各小学校での保、幼、小交流給食事業 ・小学校体験入学の実施
- ・区連合記録会に向けての中学生陸上競技指導

(3) 授業研究会

第1回授業研究会	王子第三小	授業 13:45～	協議会 14:45～	全体会 15:40～
①国語	1年2組	単元名「おばさんとおばあさん」	授業者	広江 京子
	3年2組	単元名「本はともだち～ミニビブリオバトルをしよう～」	授業者	関谷 好美
	5年2組	単元名「新聞記事を読み比べよう」	授業者	開 英里香
②社会 生活科	3年1組	単元名「わたしたちの北区」	授業者	岩森 一弥
	1年1組	単元名「きれいにさいてね わたしのはな」	授業者	松村 裕子
③算数	4年1組	単元名「垂直・平行と四角形」	授業者	工藤 翔平
	4年2組		授業者	今清水 仁美
	少人数指導		授業者	塚原 英俊
④理科 道徳	6年2組	単元名「植物のからだのはたらき」	授業者	秋葉 典人
	2年2組	教材名「わすれられない えがお」	授業者	緒方 直道
	6年1組	教材名「ばかじゃん」	授業者	松戸 博子
⑤体育	5年1組	単元名「体の動きを高める運動」～たくみな技～	授業者	川上 知宜
⑥外国語活動	2年1組	単元名「これは何色？」	授業者	原 朋子
			授業者	
			授業者	
			授業者	
⑦特別支援教育	3組	Aグループ 道徳 教材名「さるくんはだめ」	授業者	鈴木 愛菜
			授業者	山田 絵美
			授業者	酒井 和哉
			授業者	大嶋沙也加

第2回授業研究会 十条富士見中 授業 13:45～

○全体会 15:40～ 実践発表 じゅうじょうなかはら幼稚園

講演「今求められる豊かな心～学校ファミリーを生かした道徳科の実践～」

講師 東京都教職員研修センター東京教師養成塾教授 木村 良平 先生

②社 会	3年1組	単元名「二度の世界大戦と日本」	授業者	細萱 仁志
③数 学	3年3組	単元名「二次方程式」	授業者	島田 正義
	3年4組		授業者	金城 龍弥
			授業者	小暮 勝利
④理 科	1年3組	単元名「火山」	授業者	樋口健太郎
	2年2組	単元名「電気」	授業者	河野 泉
⑤美 術	1年1組	単元名「質問教室」	授業者	伊藤 智也
保健体育	2年3組	単元名「水泳」	授業者	呑口 健
			授業者	白戸 玲香
音 楽	2年1組	単元名「合唱」	授業者	増本千扶美
⑥英 語	1年2組	単元名「命令文の導入」	授業者	黒瀬 由真
	3年2組	単元名「現在完了形」	授業者	古谷ちひろ

第3回授業研究会 王子第二小 授業 13:45～ 協議会 14:40～ 全体会 15:50～

①国 語	4年1組	単元名「わたしたちの生活とロボットについて考えよう」	授業者	酒井 継嗣
②社 会	5年1組	単元名「情報産業とわたしたちの暮らし」	授業者	田中 亮太
生活科	1年2組	単元名「ふゆとともにだちになろう」	授業者	岡村 亜美
③算 数	2年1組	単元名「たし算とひき算」	授業者	三木 裕子
④道 徳	6年1組	教材名「夢」	授業者	野田 豊朗
⑤体 育	3年1組	単元名「ポートボール」	授業者	伊藤 優佑
図 工	2年2組	単元名「へんしんぼうし」	授業者	佐藤 友美
⑥外国語活動	1年1組	単元名「What is this?」「A carrot」	授業者	石井百合子
⑦特別支援教育	巡回指導を中心とした特別支援教育についての研修・情報交換			

【各分科会講師】

① 東京家政大学進路支援センターキャリア支援アドバイザー	三原 一浩 先生
② 王子第五小学校校長	岩切 洋一 先生
③ 元東京都算数教育研究会会長	子安 茂 先生
④ 元東京都小学校道徳研究会会長	根岸 永福 先生
⑤ 元王子第三小学校校長	石原 容子 先生
前赤羽台西小学校校長	野間 俊彦 先生
⑥ 北区外国語教育アドバイザー	三浦 邦子 先生

3 成果と工夫した点

研究主題を「言語活動の充実」～幼児・児童・生徒の主体的な学びの推進～と設定し今年度の研修に取り組んだ。授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方を探求することができた。また、今年度から「特別支援教育」の分科会を設け幼・小・中の連携型個別指導計画等の理解を深めることができた。

4 課題と改善の方向性

サブファミリー内の幼・小・中の園児・児童・生徒の発達段階や特性を踏まえた連携を目指し、今後も実践を積み重ね小中一貫カリキュラムの研究を深めサブファミリー全体の学力向上の実現につなげることが課題である。

明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

1 連携の方向性

【研究主題】キャリア教育を中心とした学力向上を特色として、以下の4つの柱で推進する。

- ①各校及びファミリー全体であいさつ運動を重点に円滑な連携を図る。
- ②学習意欲の向上を図り、子供たち自身による学びの深まりを目指す。
- ③今の自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。
- ④9年間の小中一貫教育の推進により、教育内容の一層の充実を図る。

2 具体的な活動

(1) 日時・会場・活動内容

日時／会場	内 容
4月27日（金） 15:30～ 明桜中	第1回運営委員会 ・組織づくり・今年度の活動方針と計画確認・全体会役割分担
5月11日（金） 15:00～ 明桜中	全体会：今年度の活動説明 授業研究分科会：顔合わせ、役割分担 第2回運営委員会
6月1日（金） 15:00～ 明桜中	授業分科会：第1回授業案事前検討（明桜中） 第3回運営委員会
6月20日（水） 13:45～ 明桜中	北区学校ファミリーの日① ・明桜中学校授業、研究協議会、情報交換 第4回運営委員会
8月28日（火） 14:10～ 柳田小	授業分科会：第2回授業案事前検討（柳田小） 育ちの分科会：育ちのつながりを意識したキャリア教育について 第5回運営委員会
9月5日（水） 13:45～ 柳田小	北区学校ファミリーの日② ・柳田小学校授業、研究協議会、情報交換 第6回運営委員会 つまずきゼロプラン小中一貫学力向上部会（各校教務主任）
12月18日（火） 15:00～としま若葉小	授業分科会：第3回授業案事前検討（としま若葉小） 第7回運営委員会 ・1月協議会計画・分担・準備
1月30日（水） 13:45～としま若葉小	北区学校ファミリーの日③ ・としま若葉小学校授業、研究協議会、1年間の振り返り 第8回運営委員会 ・2月全体会計画・1年間の反省・次年度の活動内容等の検討
2月15日（金） 15:00～ 明桜中	全体会 ・各授業研究分科会より今年度の研究の成果と課題を報告 ・来年度計画案について、運営委員会より提案 第9回運営委員会

(2) 分科会での活動

① 授業分科会

6月20日（水）明桜中、9月5日（水）柳田小、1月30日（水）としま若葉小において各教科及び道徳・特別支援の12分科会に分かれて研究授業を行った。（養護部は情報交換）各分科会では次のことが話し合われた。

- 学びのつながりから学習上の児童・生徒の課題と対応策を検討した。
- キャリア教育の観点から授業を見直し、課題を探った。

② 育ちの分科会

8月28日（火）柳田小学校において学級づくりで大切にしたいこと（基本的生活習慣）、授業中の学習習慣を定着させるための手だて、各教科における言語活動（言葉を大切に活動など）、家庭学習における家庭との連携、児童・生徒のけがや事故対応、保護者への対応・外部機関との連携の6つのテーマで10分科会に分かれ、児童・生徒の実態を課題、対応策について各校からの情報交換をした。

(3) 児童会・生徒会の交流

生徒会・児童会での情報交換を計画した。



3 成果と工夫した点

(1) 【教科指導面での連携について】

中学校1回、小学校2回の授業を実施した。実施に向けた事前の指導案検討会を通して、本時の授業だけではなく、小学校・中学校の学びのつながりについて理解を深めることができた。

具体的な教材・教具や指導方法についても、中学校教員の専門性をいかした情報交換が行えた。

(2) 【キャリア教育との関連について】

指導案に、「キャリア教育とのつながり」や「キャリア教育の視点から見て特に重要なこと」を記述することが定着してきた。指導案検討の段階から、育てたい力としてきちんと位置付けて分科会内で意見交換をすることができた。

異動してこられた先生方も指導案を見ることによって本サブファミリーの取組が理解できる状況にある。

(3) 【生活指導面での連携について】

① 育ちの分科会は全員が6つの観点のうち4つの観点は同一観点で2分科会を設定した。分科会あたりの人数を少なくすることによって全員が発言する機会を確保した。同一テーマを二つの分科会で話し合い、それぞれで出た意見を比較・検討することにより、観点に関する理解を深めることができた。

② 各校の授業規律や生活のきまり等を持ち寄り、情報交換を行った。冊子や掲示物等、具体的な取組の資料をもとに、各校の指導に生かしていけるものをお互いに取り入れようとすることができた。

9年間のつながりの中で児童や生徒を育てようという意識をもつことができた。

4 課題と改善の方向性

① 今後さらに、次期学習指導要領完全実施に向けて「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった授業をサブファミリーで推進していく。

② 次年度は、教科分科会の構成を整理し、「特別活動」「総合的な学習の時間」分科会を設定し、より充実した指導を検討していく。

③ サブファミリー全体で、児童・生徒の情報を共有し、指導にいかしていく。生徒会と児童会の交流については、内容・時間設定ともに、検討が必要である。

堀船中サブファミリー（堀船中・堀船小・滝野川第五小）

1 連携の方向性

本サブファミリーでは、「情報活用能力の育成」を柱として、小中の連続した9年間の学びを視野に入れ授業実践を行った。育てたい児童・生徒像を「知育」・「徳育」・「体育」に分けて次のように策定した。「知育」分野では「基礎学力を身に付け、自ら考える子」、「徳育」分野では「思いやりの心をもったやさしい子」、「体育」分野では「ねばり強く、最後までがんばる、げんきな子」を目指している。

具体的な組織については、以下の6つの分科会に編成して研究を進めた。分科会のメンバーは1年間固定し、同じ講師の先生からご指導をいただいた。

- ①国語 ②算数・数学 ③社会・理科・生活・総合
- ④英語・外国語活動 ⑤芸術・体育 ⑥養護

2 今年度の主な活動内容

5月 9日 堀船中にて全体会（今年度の方針、組織、情報交換）

6月 1 1日 堀船中にて分科会ごとに指導案検討会

6月 2 0日 堀船中にて連携授業（第1回ファミリーの日）

【国語】		2年1組	増田友子教諭・埴祥子教諭
【算数・数学】	数学科少人数	3年2組	奥村准一主幹教諭・橋本梨乃教諭
【社会・理科・生活・総合】	理科	2年2組	岩本康弘教諭
【芸術・体育】	音楽科	1年全員	吉田郁子主任教諭
【英語・外国語活動】	英語科少人数	3年1組	土井宏之主幹教諭・江田彩芳教諭
【養護】	不登校児童・生徒支援モデルサブファミリーの研究		養護教諭・SSW・教育総合相談センター

8月 2 7日 滝五小にて夏季ファミリー研修（9月5日の連携授業の指導案検討）

9月 5日 滝五小にて連携授業（第2回ファミリーの日）

【国語】		1年1組	坂巻博美主任教諭
【算数・数学】	算数科少人数	3年1組	大石小百合主幹教諭・倉持美由記教諭
【社会・理科・生活・総合】	理科	5年1組	佐伯陽子主任教諭
【芸術・体育】	体育科	6年2組	鈴木誠教諭
【英語・外国語活動】	外国語活動	5年2組	伊藤善隆教諭

12月 2 4日 堀船小にて平成29・30年度北区教育委員会研究協力校研究発表会
授業者以外は、分科会に関連する授業を参観（第3回ファミリーの日）

《研究主題》互いにかかわり合い、主体的に学ぶ児童の育成

～かかわり合いに注目した学びスタイルを生かして～

公開授業1年	船っ子タイム「ともだちをもっと知ろう」	古澤直子主任教諭・福嶋啓子教諭
2年	船っ子タイム「ともだちをもっと知ろう」	靱 清香教諭・相磯良太教諭
3年	算数科 「□を用いた式」	鈴木統大教諭・千葉未央主任教諭 西脇輝久主幹教諭
4年	体育科 「体づくり運動」 「ゲーム（ゴール型ミニサッカー）」	甲田一生教諭 久保田美紀主任教諭
5年	体育科 「ボール運動（ゴール型ハンドボール）」	田中良治主任教諭
6年	算数科 「並べ方と組み合わせ」	栗原愛子主幹教諭・吉原武久教諭 大野久仁子主任教諭

2月19日 運営委員会 今年度の反省と来年度の方針・計画検討 滝五小にて
《講師の先生方》（講師の先生を1年間固定）

国語	東京家政大学進路支援センター 進路支援アドバイザー	三原一浩先生
算数・数学	北区教育アドバイザー	中尾豊三郎先生
社会・理科・生活・総合	帝京科学大学教職特命教授	川上彰久先生
英語・外国語	亜細亜大学講師 前桐ヶ丘中学校長	永嶋昌博先生
芸術・体育	元北区立浮間小学校長	伊田周平先生
《堀船小学校 研究授業及び研究協力校研究発表会 講師》		
元東京都小学校体育研究会副会長	元目黒区立鷹番小学校長	村尾知昭先生

3 成果と工夫した点

- ① 電子黒板や携帯情報端末、デジタル教科書などのICTを積極的に取り入れながら、情報活用能力を柱とした学力向上が、各校の研究発表でも明らかになった。
- ② 平成28年度堀船中、29年度滝五小、そして今年度堀船小とファミリー校が北区教育委員会研究協力校として研究発表を行い、児童・生徒の思考力や判断力、表現力を育成するために、主体的・対話的な学びを実現していく授業スタイルを確立できた。
- ③ 小中一貫した基礎・基本の定着のために、小学2年生から中学3年生までを対象に漢字コンテスト《漢字マイスター》を学年別を実施した。合格者には、ファミリーから賞状を授与した。ファミリーの一員である意識が高まり、学びの意欲を高めることに繋がった。
- ④ スクールソーシャルワーカー(SSW)を活用したサブファミリー内の連携や「学校と家庭の連携推進事業」の活用について研究を進めることができた。

4 課題と改善の方向性

各ファミリー校の研究によって授業スタイルが確立し、児童・生徒の学びに向かう姿勢や意欲が変容してきた。しかし、研究の深まりという点では、まだまだ課題がある。学校ファミリーで育てたい児童・生徒像を全体で再確認するとともに、新たな課題についても三校で共通理解を図りながら、小中一貫教育のさらなる発展・充実に繋げていきたい。

第1回 学校ファミリーの日 堀船中



第3回 (12/14) 学校ファミリーの日 堀船小研究発表会



第2回 学校ファミリーの日 滝五小



稲付中サブファミリー（稲付中・西が丘小・梅木小・うめのき幼）

1 交流・連携の方向性

平成23年度に各学校の教育目標を持ち寄って稲付中サブファミリーとして目指す幼児・児童・生徒の姿を設定した。平成30年度は、その実現に向けて教育活動の連携・推進をさらに強化した。最近の数年間、教科分科会を中心に幼小中連携授業に取り組み、幼小中の滑らかな学びの連続性の深化が図れるように授業実践、協議・検討を進めている。今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1プロブレム・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。また、稲付中サブファミリー3校が指定されている「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」としての連携、合同行事の開催や、授業研究・体験教室の実施等協力して取り組んだ。

2 具体的な活動

(1) 稲中サブファミリー組織構成

平成30年度

小中一貫教育担当校長 稲付中校長 小代表校長（梅木小）	
運営委員会 全校長・全副校長・幼副園長・各校担当主幹（主任） （必要に応じ、S F運営アドバイザー・指導主事・教育指導員他）	
授業研究部会 各分科会チーフ	国語、算数・数学、音楽、図工・美術、道徳、 生活・総合 6分科会
稲付中学校 梅木小学校	西が丘小学校 うめのき幼稚園

(2) サブファミリー全体での活動（年間計画）

実施日	会場	取組	内容
5月 8日（火）	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画、 6月学校ファミリーの日計画
6月20日（水）	西が丘小学校	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月27日（月）	稲付中学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
9月 5日（水）	稲付中学校	連携授業	教科分科会ごとに連携授業、研究協議会、つまずきゼロプラン検討
12月18日（火）	梅木小学校 うめのき幼	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
1月24日（水）	西が丘小学校	連携授業 運営委員会③	分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ（成果と課題）
2月18日（月）	稲付中学校	全体会・報告会 運営委員会④	オリパラ教育報告発表会及び講演会 各分科会報告、次年度へ向けて

3 成果と工夫した点

- (1) 今年度も9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリー一斉研修日を設定した。幼小中の教員が6つの分科会ごとに集まり、指導案や指導方法を検討及び協議することを通して教材研究を進め、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) ファミリーの日3回全てで授業研究を実施した。授業後の6分科会では、北区小中一貫カリキュラムを基にした授業の振り返りや指導内容・方法の改善について協議したり、つまずきゼロプランを検討したりした。その結果、平成30年度北区基礎・基本定着度調査では、稲付中の全学年において、全国の正答率を各教科全項目で上回ることはできた。
- (3) 特定公開フォルダー〈稲付中SF〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の場として活用の幅が広がった。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育アワード校(3校)として、2月18日(月)に稲付中学校で「オリンピック・パラリンピック教育報告発表会」を実施した。発表会後には、北区スポーツ大使の高橋 勇市さんにご講演いただいた。研究授業や作成した実践報告書を通して、サブファミリー間で情報を共有することができた。またロンドンオリンピック メドレーリレー銅メダリストの上田 春佳選手、加藤 ゆか選手を招聘し、小学校2校合同水泳記録会を9月11日(火)に王子第三小学校で実施した。中学校進学前の6年生児童が一堂に会して親睦を深める機会を増やすことにより、児童相互の理解を深め、中学校入学後の好ましい人間関係の形成につなげることができた。

4 課題と改善の方向性

(1) 授業研究での課題と改善

- ・全ての教科を2年間に分けて、オリンピック・パラリンピック教育に関する研究授業を実施した。ただ、教科によっては、オリンピック・パラリンピック教育を研究授業で実施することが難しい部分もあった。教科の分け方やグルーピングも含め、改善が必要である。
- ・これまで3回の学校ファミリーの日での連携授業を実施するとともに、報告会を別日に設けて実施してきた。授業時数の確保や働き方改革等の面から、3回の学校ファミリーの日に報告会も合わせて実施していくようにする。

(2) 研究推進についての課題と改善

昨年度から稲付中サブファミリーは3校が「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」に指定されている。また、「オリンピック・パラリンピック教育」の年間指導計画を踏まえ、サブファミリー内で情報交換や共通理解を図りながら、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図っていく。今年度の課題を踏まえ、組織の面では教科分科会を見直したり、また効率化の面では報告会も含め3回の学校ファミリーの日で実施したり、より稲付中サブファミリーの研究が推進しやすい方向に改善を図っていく。

赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

1 交流・連携の方向性

育てたい子ども像を「学びをつなぎ生きる力をもった子ども」と設定し、以下の内容で小中合同研修や交流活動に取り組んだ。

- ① 児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。
- ② 授業において、各教科分科会における小中一貫カリキュラムに基づいた授業計画と実践を通して、9年間を見通した小中の連続性のある指導を行う。
- ③ 「防災教育」に焦点を当て、「防災教育小中一貫指導計画」を策定するとともに、小中合同引き取り訓練（5月2日実施）や地域総合防災訓練など、保護者・地域と連携した小中一貫型防災型教育を推進する。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- サブファミリー運営委員会（各校校長）を年5回行い、活動方針の決定を始め、学校ファミリーの日の内容や各校間で必要な調整の確認を行った。
- 5月2日（水）全体会を赤羽岩淵中学校にて行い年間方針を確認した。その後、各分科会にて打ち合わせをした。（10分科会に分かれ、運営方法や授業担当などを決める）
- 2月12日（火）…中3小6担当連絡会を赤羽岩淵中にて行う。

(2) サブファミリー全体での活動

- 国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、体育・保健体育部会、音楽・図工・美術・技術・家庭部会、道徳部会、養護・特別支援部会、防災部会の10分科会を設置。全員が所属し各分科会の企画・運営を行った。また、展覧会作品交流展示をすることや吹奏楽部と小学生との音楽交流を推進した。
- 授業研究及び研究協議会について
 - 6月20日（水）…北区学校ファミリーの日①
赤羽岩淵中学校会場 午後2時00分 各分科会
 - 1月30日（水）…北区学校ファミリーの日③
赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小の各小学校会場
午後1時45分 各分科会
 - 防災・安全教育について
 - 5月 2日（水）小中合同引き取り訓練
 - 7月17日（火）サブファミリー生活指導連絡協議会
赤羽小学校会場 午後3時30分 長期休業日前の生活や課題について
 - 8月27日（月）防災関連の講演会研修（教職員）
赤羽岩淵中学校会場 午前10時00分
講師：日本安全教育学会理事 矢崎 良明 氏

9月 5日（水）…北区学校ファミリーの日②

岩淵小学校会場 午後1時45分 防災・安全教育に焦点を当てた授業・研究協議の後、安全教育を重点に講演会研修を実施した。

12月17日（月）サブファミリー生活指導連絡協議会

なでしこ小学校会場 午後3時00分 長期休業日前の生活や課題について

3 成果と工夫した点

- ① 10分科会に分かれて、小中が連携した授業研究を推進している。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の流れを意識し、今までの研究を踏まえて更に内容を深化させることができた。
- ② 防災引き取り訓練を小中が連携して同時に実施し、保護者が小学生を迎えに行ったその足で、中学校へ来るといふ訓練が定着し、全く混乱なく実施できた。サブファミリーの小中学校が同日に一斉に引き取り訓練をすることで保護者や地域の防災に対する意識は更に高まっている。
- ③ 北区防災学校・地域との合同防災教育授業・ファミリーの日の防災研究授業・夏休み防災講演会など、各小中学校で実践的な防災教育に取り組み、特に地域自治会や消防署・各消防団と連携した防災訓練が継続的に取り行われている。防災の知識に加え、登下校の安全や日常の安全について講演をいただき、地域の安全や身を守ることの大切さを小中の教員が再認識することができ教員間の話し合いも深まった。
- ④ ファミリー小学校の6年生全員を対象にした中学校新入生体験授業の実施、ファミリー校展覧会作品交流展示、PTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察が参加しての長期休業前のサブファミリー生活指導連絡協議会（夏季・冬季休業日前の年2回実施）など、関係諸機関・PTA・児童を巻き込んだファミリー間の連携行事で信頼関係がさらに深まっている。
- ⑤ 年度末に「小6」、「中3」の担当者が情報を共有し、きめ細かい情報共有の結果、「中1ギャップ」の解消に努めることができた。

4 課題と改善の方向性

- ① 運営委員会で決定された運営方針をもとに、各校の教務主任・各分科会のチーフと連絡を取り合い職員の連携を深めていくことが重要である。
- ② 各校の特徴を生かしながら小中9年間の間で、地域と連携した教育活動を推進する研修内容を工夫する。
- ③ 各校の取り組みや行事等が重なり、日程調整が大変困難である。水曜日以外の開催や土曜日授業の内容等検討することが今後の課題である。



中学1年生 英語の授業

桐ヶ丘中サブファミリー

(桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼)

1 交流・連携の方向性

「何事にも意欲的に取り組み、自己有用感もてる幼児・児童・生徒を育てる」というテーマのもと、子供の多様な課題に対応することを重点に、各教科・領域による提案授業に積極的に取り組み、幼小中の円滑な接続に努める。

また、「桐ヶ丘子ども憲章」を推進する。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

年度当初、運営委員会において、今年度の活動の方向性を確認した。3回の学校ファミリーの日に、1回目は桐ヶ丘中学校で全教科の授業、2回目、3回目は小学校2校で同日に授業を実施し、それぞれを参観し協議会を行い「教科・領域」を中心とした授業実践を行う。

7月20日(金) 15:15～ 提案授業に向けての打合せ会 赤西小、八幡小
12月25日(火) 15:15～ 提案授業に向けての打合せ会 桐郷小、袋小

(2) サブファミリー全体での活動

① 桐ヶ丘中学校 平成30年6月20日(水)

【全教科・道徳】

授業者 全教師による授業実践の公開

【全体会】

演題 「特別の教科 道徳」これからのあり方について

講師 杉並区立済美教育センター教授 福田 鉄雄先生

【分科会・協議会】全教科・道徳分科会 特別支援分科会

② 八幡小学校 平成30年9月5日(水)

【道徳】第2学年1組

授業者 平井 花奈先生

講師 教育総合相談センター 渡邊 美枝子先生

【外国語】第4学年1組

授業者 西澤 亜也子先生

講師 埼玉大学教育学部教授 武田 ちあき先生

【分科会・協議会】道徳・外国語分科会 特別支援教育分科会

③ 赤羽台西小学校 平成30年9月5日(水)

【道徳】第1学年2組

授業者 友寄 舞先生

講師 桐ヶ丘郷小学校 池田 なほみ先生



【図工】第3学年1組

授業者 越智 和佐先生 長嶋 俊作先生
講師 赤羽台西小学校前校長 野間 俊彦先生

【音楽】第3学年2組

授業者 玉越 沙織先生
講師 田端小学校 栗原 洋子先生

【分科会・協議会】 道徳・図工・音楽分科会 特別支援教育分科会

④ 袋小学校 平成31年1月30日（水）

【道徳】第4学年1組

授業者 松原 裕之先生
講師 元東京都小学校道徳教育研究会会長 田代 敏博先生

【外国語】

第3学年2組
授業者 小林 彩夏先生
講師 北区外国語教育アドバイザー 金藤 明美先生

【分科会・協議会】 道徳・外国語分科会 特別支援教育分科会

⑤ 桐ヶ丘郷小学校 平成31年1月30日（水）

【外国語】第5学年2組

授業者 木村 薫先生
講師 赤羽台西小学校 関根 愛弓先生

【社会】4年1組

授業者 沓掛 貴子先生
講師 練馬区立光が丘春の風小学校 指導教諭 嵐 元秀先生

3 成果と工夫した点

- ① 各小学校において、2校同時に提案授業を行い、各自のねらいに応じて参観授業を選択し協議会に参加した。「特別の教科道徳」は、共通の実践ができた。
- ② 年間3回の研修会すべてにおいて特別支援教育分科会を設置したことで、幼小中で情報交換を行うとともに、教育委員会の方から直接ご指導をいただくことができた。

4 課題と改善の方向性

どの教科・領域においても、もっと「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を目指す必要がある。来年度は、更に手だてを工夫し、何事にも意欲的に取り組み、自己有用感のもてる幼児・児童・生徒を育てていく。

神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

1 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携教育」から「小中一貫教育」へ。義務教育9か年の学びの連続性と、校種の特性を生かした「小中一貫教育」を着実に実践する。【学びのスタンダード構築から確立へ】
- (2) 授業研究のための分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、授業研究を行う。
- (3) サブファミリー総合防災訓練を核として、義務教育9年間を見通した防災教育を実施し、地域防災の担い手を育てる。
- (4) 小中の教員間の交流を活発にして、教員相互の信頼関係を深めるとともに、小中一貫教育の学びの連続性を考慮した指導案の検討を通して、教員の授業力向上を図る。
- (5) 各小中学校の特色を相互理解し、学校行事やその他の交流を推進する。また、児童・生徒の相互理解を深めるとともに、中学校進学への不安感を除く。

2 具体的な活動

(1) 打合せや調整

- ① 4月 5日（木）「管理職打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ② 4月12日（木）「防災訓練3校打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ③ 5月31日（木）「防災訓練3校打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ④ 7月 9日（月）「SF連絡協議会」午後4時～5時30分（神谷中）
・各校の生活指導・現況報告・情報交換、赤羽警察署より情報提供
- ⑤ 8月30日（木）「SF全体会」午後2時30分～2時50分（神谷中）
- ⑥ 9月29日（土）「SF標語展最終審査会」午後0時～0時30分（神谷小）
- ⑦ 11月27日（火）「百人一首大会打合せ」午後3時45分～4時30分（神谷中）
- ⑧ 1月30日（水）「管理職打合せ」午後3時～6時（神谷中）

(2) サブファミリー全体での活動

- ① 5月12日（土）「SF合同引き渡し訓練」
各小中学校会場 午前10時40分～12時
- ② 6月 9日（土）「SF総合防災訓練」
神谷中学校会場 午前8時30分～12時
- ③ 6月15日（金）「小中一貫指導案検討会」
神谷小学校会場 午後3時30分～4時30分
- ④ 6月20日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」
稲田小学校会場 午後1時40分～4時00分
・講師 北 俊夫 先生（元国士舘大学教授）
日吉 英智 先生（武蔵村山市立第九小学校副校長）
田中 一男 先生（北区立滝野川第二小学校主任教諭）
関根 克洋 先生（北区立神谷中学校副校長）
- ⑤ 8月30日（水）「小中一貫指導案検討会」神谷中学校会場 午後1時～2時20分
「施設見学会」北区立なでしこ小学校 午後3時～4時30分



サブファミリー総合防災訓練

- ⑥ 9月 5日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」
 神谷中学校会場 午後1時40分～4時
 ・講師 永井 宏 先生（算数教育アドバイザー 算数数学教育合同研究会顧問）
 三浦 邦子 先生（北区外国語教育アドバイザー）
 小林 誠 先生（前北区立明桜中学校長）
 東山 信彦 先生（西東京市立田無第四中学校長）
- ⑦ 「サブファミリー標語展」
 ・「命」、「愛」、「人権」、「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集
 ・9月に最優秀作品10点を選び、ポスターを作成
 ・校内及び町会・自治会の掲示板にて展示
- ⑧ 10月2日（火）「神谷中学校体験入学」
 神谷中学校会場 午後1時30分～4時
 ・学校紹介・体験授業・部活動体験
- ⑨ 12月17日（月）「百人一首かるた大会」
 神谷中学校会場 午後1時30分～3時
 ・中学1年生と小学4年生との合同交流戦を実施
- ⑩ 1月21日（月）「小中一貫指導案検討会」
 神谷小学校会場 午後3時45分～4時30分
- ⑪ 1月30日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」
 神谷小学校会場 午後1時40分～4時
 ・講師 中村 守 先生（玉川大学客員教授）
 小林 誠 先生（前北区立明桜中学校長）
 日吉 英智 先生（武蔵村山市立第九小学校副校長）



サブファミリー農業体験（田植え）

3 成果と工夫した点

- (1) 「サブファミリー総合防災訓練」及び「小中合同引き渡し訓練」は共に3年目となり、運営方法等の共通理解が図られ、小中学校教職員が見通しをもって指導することができた。そのため児童・生徒への定着も効率良く実現できている。
- (2) 「つまずきゼロプラン」の小中一貫学力向上部会を早い時期に開催できたため、小学校6年生で学力向上に取り組める期間を確保することができた。
- (3) 2（2）で記載した以外に、農業体験学習は、稲作を中心に小中合同活動での実施も定着し、地域との連携も含めて充実している。

4 課題と改善の方向性

- (1) 義務教育9年間を見通した防災教育の核である「サブファミリー総合防災訓練」の実施スタイルが定着してきたので、今後は内容、方法の工夫について検討する。
- (2) 施設一体型小中一貫校（義務教育学校）の開校を見据えた授業連携を確実に推進する。小中一貫教育のカリキュラムを考慮した授業を、小中学校教員のTTによる展開で実施していく。また、3校担当者会を通して、学校行事、生活指導等においても、現状を見直して改善を図り、3校の一体感をさらに高めていく。

浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

1 交流・連携の方向性

浮間中サブファミリーでは、研究主題を「自ら考え、判断し、主体的に学習する子どもの育成」とし、特色ある取組を「花・音・風 ー情操教育の推進ー」として、さくら草の栽培を通して生命の尊重や郷土を愛する心を培うことや、音楽活動等を始めとする交流を通して連続性・一貫性のある豊かな情操を育む活動を行ってきている。また、今年度も公開授業や「つまずき0プラン 小中一貫学力向上シート」の作成・実施を通して、学習に関する小中の学びの連続性を重視した連携を推進する。

(1) 「学校ファミリーの日」を活用した教員の合同研修を通して、学校ファミリーとしての小中一貫教育の学びの方向性を探り実践していく。

「公開授業」、「全体協議会・分科会」、「中1ギャップ連絡会」等を行う。

(2) 子どもたちがより高い目標や理想に向かって向上しようとする態度を育成するために児童・生徒の交流の機会を設定する。

児童と生徒が合同で行う「音楽交流」、「地域清掃ボランティア」や児童・生徒及び保護者・地域に開かれた「茶道教室」等を行う。

(3) 学校行事等の連携を推進するため、3校の行事の確認と内容を検討し、お互いの学校の教育活動に反映できるようにする。

「合同引き取り避難訓練」、「新入生説明会」、「文化祭参加」、「音楽発表会参加」、「PTA 3校合同連絡会」等を行う。

2 具体的な活動

(1) 推進や運営に関する調整・協議

- ① 運営委員による方針・目標等の決定
- ② 副校長による内容・方法等の検討
- ③ 主幹教諭等による日程・内容等の調整
- ④ 担当者による内容の打ち合わせ

(2) サブファミリー全体での活動

① 合同研修会・公開授業

年3回の「学校ファミリーの日」に、公開授業と協議会を実施した。

6月には、浮間小学校で全学級の授業を公開し、授業後は分科会に別れて感想や意見交換、小中一貫教育の方向性等について話し合い、全体会にて各分科会より報告した。

9月には、同様に浮間中学校で全学級の授業を公開し、授業後の分科会では授業についての協議の他、北区基礎・基本の定着度調査の結果(中学1年生)をもとに、学力向上に向けての課題について指導の在り方等を検討し、全体会で共有した。

1月には、同様に西浮間小学校で全学級の授業を公開し、分科会では、中学校でできること、小学校でできること等について、具体的な話し合いを行い全体会で報告した。

② 中1ギャップ連絡会

「学校ファミリーの日」の分科会終了後、「中1ギャップ連絡会」を行った。6月は小学校旧6年生担任と中学校1年生担任が、管理職も含めて子どもたちの様子に関する情報交換を行った。9月には教務主任が、つまずき0プランの検討と次年度を見据えた各校の行事予定の擦合せ等を行い、また、3月には、現6年生担任と中学校の教員が中

1 ギャップ解消に向けての連絡会を実施し、その後、教務主任等で整理・改善を進めた。

③ 地域ボランティア

8月31日（金）に、各校一斉に例年恒例となった浮間地区の清掃活動を3校PTA及び教職員が子どもたちと共に活動に参加した。

④ 合同引き取り避難訓練

9月8日（土）に、3校合同で行った。保護者が中学校から小学校を經由して子どもたちを引き取るという流れで実施した。大きな混乱もなく訓練を終えることができた。

⑤ 文化行事交流

10月27日（土）に、浮間中学校の文化祭の舞台部門で、浮間小学校の児童による合唱が披露された。また、12月8日（土）には浮間中学校の吹奏楽部が西浮間小学校の音楽集会に参加して西浮間小学校金管バンドと合同演奏を行い、両校の児童との交流を深めた。



浮間中文化祭にて合唱する浮間小児童

⑥ 新入生説明会・部活見学

11月20日（火）に、中学校の授業風景の参観と部活動見学・体験を主体に行った。新入生説明会では、浮間中学校生徒会による学校紹介のプレゼンテーションも行われ、中学校の様子を両校の6年生に伝えることができた。

⑦ 伝統文化親子茶道教室

長年、伝統文化子供茶道教室として地域の小中学生に親しまれてきた活動を、地域の皆様や保護者からの要望もあり、一昨年度から大人の方の参加も歓迎している。浮間中学校茶道部の生徒の協力のもと、地域と小中学生の交流の場及び健全育成の視点からも有意義な活動となっている。

3 成果と工夫した点

- (1) 合同研修会では、今年度も各教科・道徳・特別支援教育からなる9分科会による協議を行い、学力向上や児童・生徒理解に関する共通理解を深めた。
- (2) つまづき0プランをもとに各教科における重点指導事項(課題)を明確にし、各校の教育課程や学力の状況について、より理解を深め、その解決についての改善を進めた。
- (3) 北区で作成された小中一貫カリキュラムや北区基礎基本定着度調査結果を踏まえての研究授業や教育実践を行うことができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) サブファミリーとして、地域の特色や子どもたちの特性を踏まえた本質的な「連携」を目指して、今後も、地域とともに取り組む視点をもった実践を重ねていく。
- (2) 各種調査結果を分析・考察することにより、学習課題を明確にし、小中共通理解のもと、弱点克服に向けた具体的な取り組みを実施する。
- (3) 小中の連携の強化や職務の効率化等を推進する上での新校務支援システムの具体的な活用法を検討する。

田端中サブファミリー（田端中・滝野川第四小・田端小）

1 交流・連携の方向性

研究テーマ：「小中一貫教育を視野に入れた教科における連携を探る」

- ①中1ギャップを無くし、学校教育の円滑な接続を実現させ、児童・生徒の確かな学力の定着を目指す。
- ②小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、9年間の積み重ねを目指す。
- ③地域一体となって、魅力ある学校づくりを目指す。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

○第1回運営委員会（校長・副校長・主幹教諭）

- ①日時：平成30年5月1日（火）15時30分～ 会場：滝野川第四小学校
- ②分担：ファミリー会議担当校（滝四小）、三校連絡協議会担当校（田端中）、ファミリー報告書担当校（田端小）
- ③内容：年間活動予定の確認、分科会組織の確認、オープンスクール・その他の活動予定の確認

○第2回運営委員会（校長・副校長・主幹教諭）

- ①日時：平成31年1月25日（金）15時30分～ 会場：滝野川第四小学校
- ②内容：平成31年度活動予定の確認、オープンスクールの運営・実施内容の確認

(2) サブファミリー全体での活動

○第1回学校ファミリー合同研修会（会場：滝四小）

- ①日時：平成30年6月20日（水）13時40分～
- ②内容：授業参観5校時（13学級）、8分科会ごとの協議会、全体会（分科会からの報告）、担当校長からの指導講評

○第2回学校ファミリー合同研修会（会場：田端中）

- ①日時：9月5日（水）13時40分～
- ②内容：授業参観5校時（7学級）、8分科会ごとの協議会
全体会 講演会「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント」
講師 東京女子体育大学教授 田中洋一先生

- ・小中連携への課題、小学校教育の特徴、中学校教育の特徴
- ・何から始めるか、まず共通の教育理念をもつこと
- ・義務教育終了時の理想の子供の姿を共有すること

○ファミリー小学校6年生体験入学（会場：田端中）

- ①日時：平成30年9月6日（木）13時40分～
- ②内容：生徒会による学校紹介、部活動体験

○田端学びの郷オープンスクール

（会場：田端中・田端小・滝四小・介護施設はくちょう会館・田端文士村）

- ①期日：平成30年11月2日（金）13時30分～、11月10日（土）9時～

②内容：ファミリーの児童生徒が学年の枠を超えて学び合う。その道の一流の講師からその仕事や一芸に取り組む『心と技と情熱』を学ぶ。



『動物と生命』



『料理教室』

○第3回学校ファミリー合同研修会（会場：田端小）

①日時：平成31年1月30日（水）13時40分～

②内容：授業参観5校時（16学級）、8分科会ごとの協議会、全体会（分科会からの報告）、担当校長からの指導講評

3 成果と工夫した点

○年度当初のファミリー運営委員会に学校長も参加し、学校ファミリーの交流・連携の方向性を確認し、改善策について話し合うことで効率的でかつ具体的に取り組みが審議できるようになった。

○ファミリー合同研修会では、事前に指導案を送付し合い、各分科会教員に授業内容を知らせておくことで参観の視点が焦点化し授業後の協議会の場でも意見の交流が活発にされるようになってきた。

○昨年度までの7分科会から道徳の教科化を見据え、健康教育と心の教育を分離し8分科会で研究授業を行ったことで、より道徳授業について具体的な話し合いをもつことができた。

○田端中学校の研究テーマを受け、「主体的・対話的で深い学び～ピクトグラム～」を活用し、指導計画の本時の授業展開を《導入（主体的な学び）・展開（対話的な学び）・まとめ（深い学び）》を設定し、問題解決的授業展開の実践に結び付くように努めた。1時間の流れの中に意図的に位置付けることで児童・生徒の学びに関する教師の意識改革を図ることができた。

主体的・対話的で深い学び～ピクトグラム～		
主体的な学び	対話的な学び	深い学び
★興味や関心を高める	★互いの考えを比較する	★昇高して問い続ける
★見直しをもつ	★多様な情報を収集する	★知識・技能を習得する
★自分と結びつける	★思考を表現に置き換える	★知識・技能を活用する
★布りゆく取り組み	★多様な手段で観測する	★自分の思いや考えと結びつける
★振り返って次へつなげる	★他の人が先に考えたことを手掛かりとする	★知識や技能を基盤しながら授業に臨んでいる
	★共に考えを磨き上げる	★自分の考えを形成する
	★協賛して課題解決する	★新たなものを磨き上げる

新たな学び(4)に集まる教員の資質能力向上のためのプロジェクト（次世代型教育推進センター）

4 課題と改善の方向性

○児童・生徒の校内外での情報をファミリーの教員間で共有し、一貫した指導を行うことで地域に生き、地域を支えることのできる人間を育むことができるものとする。

○オープンスクールについては、10年間継続し取り組んでいる。地域住民や保護者が求め期待する児童・生徒像を改めて探り、各講座の内容や取り組みについて見直ししながら、田端中ファミリーの一層の連携を深めていきたい。

滝野川紅葉中サブファミリー

(滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小

・谷端小・滝野川もみじ小・たきさん幼)

1 連携の方向性

- (1) サブファミリー5校1園で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。
- (2) 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫 ～滝紅中サブファミリー授業スタンダードの実践～」を共通の授業研究テーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深める活動を行う。
- (3) 滝野川紅葉中学校サブファミリー5校1園による交流大会を行い、地域との交流を促進する。
- (4) 「子供たちがどのように学ぶか」という児童・生徒の視点に立って、授業設計を深めることにより、一人一人のつまずきに対応したきめ細かな指導の充実を目指す。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ・年度初めに5校1園の校園長で、昨年度末に作成された本年度の活動計画、年間指導計画について、確認し方向性を定めた。
- ・5月7日に滝野川紅葉中学校長・各校副校園長・主幹教諭が集まり、サブファミリー運営委員会を実施し、部会の組織、運営方法、構成員の確認等を行った。
- ・教務主任・生活指導主任は随時連絡を取り合い、方針の共通理解、日程調整等を行った。

(2) ファミリー全体での活動

①授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語・体育・保健体育、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の7つの分科会で、滝紅中スタンダードの実践を視点とした指導方法の工夫改善について研究を深めた。

- ・1月30日は滝野川紅葉中学校で、分科会ごとに、授業研究及び協議会を行った。

②体験入学

- ・11月27日にサブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験入学を実施した。中学校教員による各教科の授業、生徒会役員による滝野川紅葉中学校の説明を行った。

③六校連キンボール大会

- ・1月12日（土）、滝野川紅葉中学校体育館の明るく温かい雰囲気の中、北区地域スポーツ推進委員のみなさんの御協力により、熱戦が繰り広げられた。

④「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・地域の方々と連携し、児童生徒の活動を支援できる体制を作った。谷端小学校では、自然を慈しむ心を養うこと、食の大切さを考えること等をねらいとして、栽培活動を日本農林社の御指導のもと行っている。

⑤幼稚園・小学校は「思いやり・絆」、中学校は「絆」をテーマに標語を募集し審査後、関係各所に掲示した。



3 成果と工夫した点

- (1) 授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方を探究することができた。事前に指導案検討会を行なうことで、授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。
- (2) 4月に実施した北区基礎・基本調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。
- (3) 研究授業及び研究協議会は、各回ともに全領域で講師をお招きし、指導助言をいただき、小中9年間を見通した各教科における効果的な指導の在り方を探究することができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 児童・生徒がより豊かな人間性と幅広い社会性を育むことができるように交流可能なものを精選して年間指導計画に位置付けていくことが課題である。
- (2) サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。
- (3) 今後も、新学習指導要領実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導方法や評価方法を工夫改善して実施していくことが課題である。

飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

1 交流・連携の方向性

これまでに継続してきた学力向上、児童・生徒交流を2つの柱として、小中一貫教育の推進を充実する。

育てたい子供像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子供
- 3 明るく元気に進んで運動する子供
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供



飛鳥中吹奏楽部が
西ヶ原小で招待演奏

2 具体的な活動

(1) 全体会および小中連携活動

- ① 5月 1日（火）全体会・打ち合わせ会 飛鳥中学校 15時～
- ② 6月20日（水）公開授業（全教科・全学級公開）西ヶ原小学校 13時40分～
- ③ 7月 7日（土）小中連携引き渡し訓練
- ④ 9月 5日（水）道徳授業地区公開講座（全学級公開）飛鳥中学校 13時30分～
- ⑤ 1月30日（水）公開授業（全教科・全学級公開）滝野川小学校 13時40分～



新入生体験入学 生徒会へ質問



理科授業体験



部活動体験

(2) 分科会の具体的な取り組み

[学力向上]

①算数・数学

- ・新入生体験入学における数学授業体験、見学。（11月）
- ・中学3年生が小学6年生に、算数・数学の問題解決の授業を行う。（2月）

②理科

- ・小中合同実技研修会を実施（天気の変化と流れる水の働き その他）（8月）
- ・新入生体験入学における理科授業体験、見学。（11月）

③外国語活動・外国語

- ・新入生体験入学における外国語（英語）授業体験、見学。（11月）

④道徳

- ・飛鳥中学校の道徳授業地区公開講座に3校の教員が参観。「協働的問題解決能力の視点」で授業を行い、全体協議会で意見交換会および講師から指導・講評をいただく。（9月）

- ・道徳科の評価について、滝野川小学校・西ヶ原小学校の道徳推進教師を招き、小学校の道徳科の指導と評価について学ぶ。(12月)
- ⑥小中連携「つまずきゼロプラン」会議(8月)
[児童・生徒交流]
- ①保健
飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ヶ原小で保健「たばこの害」についての授業を行う。(12月)
- ②書写・図工・美術・家庭
3校で児童・生徒の作品を巡回し、校内に掲示して作品交流を行う。(11月～3月)
- ③運動会招待演奏
西ヶ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部が演奏・パフォーマンスを披露。(5月)
- ④合唱交流・参加
飛鳥中(1年)・滝野川小(6年)・西ヶ原小(5・6年)が飛鳥中で合同合唱交流。(11月)
混声三部合唱「夢の世界を」
- ⑤部活動体験
飛鳥中での新入生体験入学で、生徒会役員の学校紹介と各部活動へ体験入部。(11月)



合唱交流



飛鳥喫煙防止隊(AKB)による「たばこの害」についての授業



3 成果と工夫した点

- (1) 小中連携によるつまずきゼロプラン協議会を8月に行った。現中1の北区基礎・基本の定着度調査の結果から各教科の課題や、現6年の学習習慣について協議し、各校の指導に活かしている。基礎学力の定着や学習習慣は定着している。
- (2) 学力向上に向けた主体的な学びを共通の主題とした研究授業をそれぞれ実施することができた。また、協議会の場を設定したことで情報交換や小中の相互理解が深められた。
- (3) 来年度からの中学校道徳科実施に向け、SF小学校2校から道徳推進教師を講師として招き、指導と評価について学ぶことができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 各分科会での交流内容を見直し運営方法も含めた改善を図る。小中の時程、カリキュラムの違いを考慮し、分科会の責任者が中心となり、連絡・調整していく。
- (2) 外国語の小中連携の取組を充実させるため、中学校の英語科教員が小学校の外国語・外国語活動の授業に出向き、TTによる授業を行えるよう改善していく。
- (3) 指導案検討から3校が関わり、可能ならばTTによる指導を実施する。
- (4) 道徳授業地区公開講座は、保護者・地域に向けて3校独自に実施する。

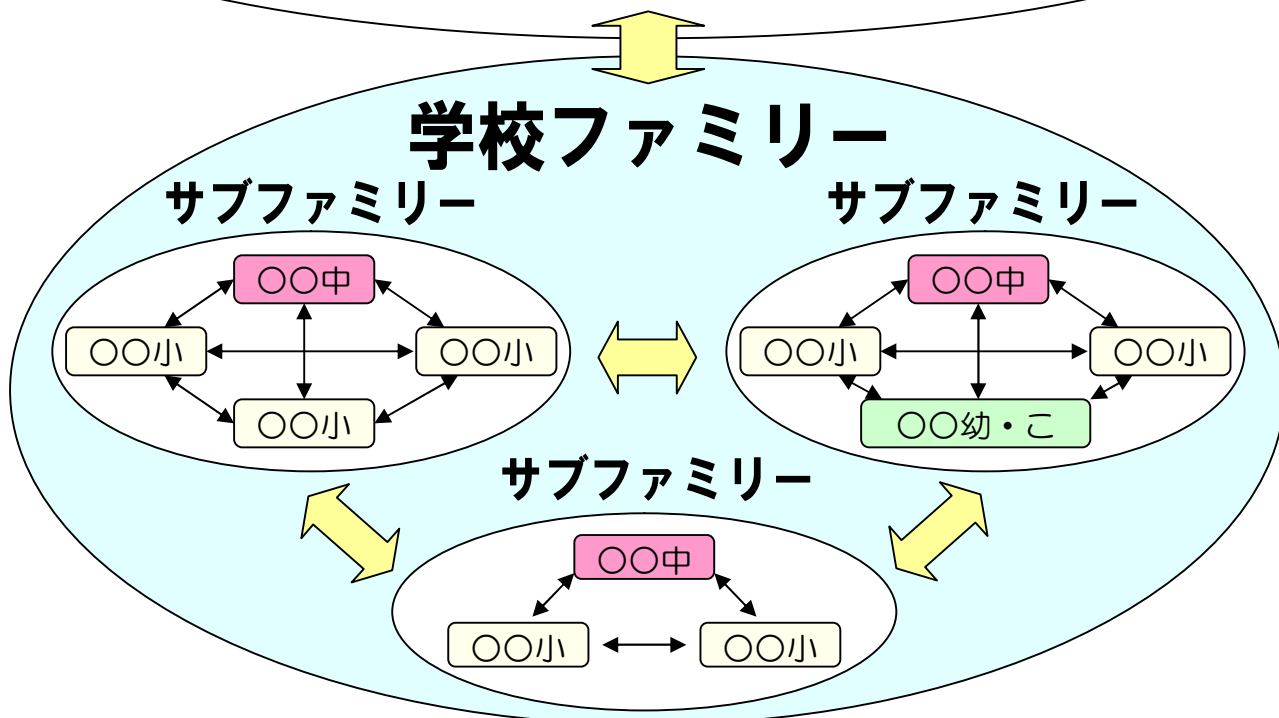
北区学校ファミリー構想概要

1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）

《学校関係者・地域の関係諸機関との連携・協力》

- 町会・自治会、青少年地区委員会、児童委員、地域振興室 など
- 高校、大学・大学院、図書館 など
- 児童館、保育園、福祉保健センター、教育相談所、児童相談所 など
- 警察署、消防署、高齢者施設 など
- 教育ボランティア、ボランティア団体、民間活動団体 など



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている



学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

2 北区学校ファミリーのねらい

①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしめます。

③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、こども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

3 学校間連携による5つの効果

①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、こども園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

サブファミリーの活動の様子



田端中 SF 小学校授業参観・合同研修会



王子桜中 SF 小中一貫（算数・数学）授業研究



桐ヶ丘中 SF 幼・小連携 TT 保育・授業



滝野川紅葉中 SF 滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中 SF 小・中連携 TT 授業



神谷中 SF ワークショップ型研修

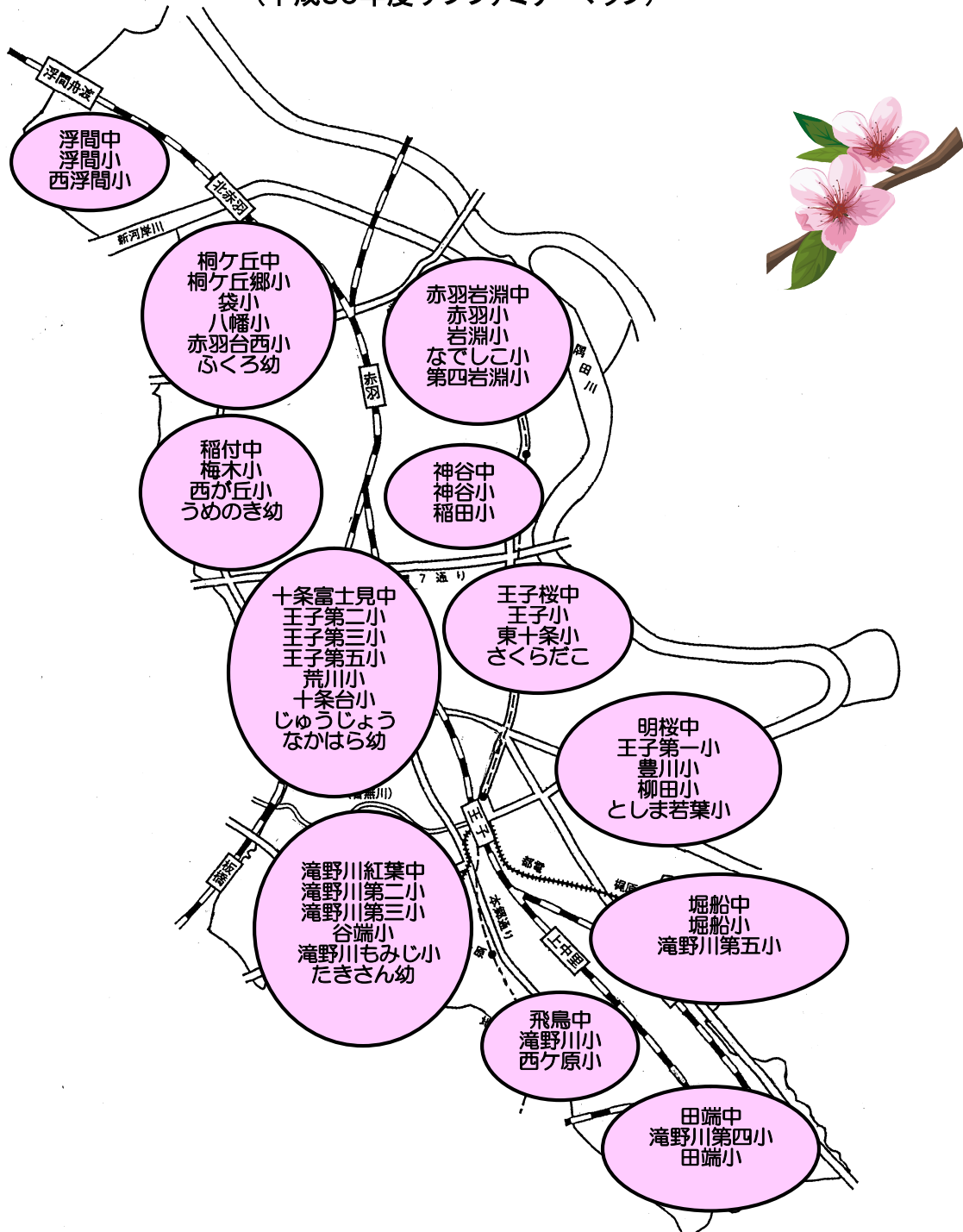
「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(平成30年度サブファミリーマップ)



6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」ととどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

平成30年度北区学校ファミリー事業報告書

平成31年3月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

30-1-153